

ローカル線で行く！ フーテン旅行記 13

—みちのく岩手で
文化財と自然を満喫！—

岡山大学工学部機械工学コース助教

大西 孝



専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47都道府県を踏破済）。

はじめに

いよいよ夏から秋にかけて観光シーズンがやってきました。地図を片手に、どこへ行こうか思案するのは楽しいものです。今回は歴史ある文化財と豊かな自然を満喫できる岩手県の旅です。

1. 遙か昔の繁栄に思いをはせて 平泉の世界遺産！

まずは岩手県の誇る文化遺産、平泉を訪れましょう。平泉は奥州藤原氏にまつわる様々な史跡を擁し、2011年に世界遺産にも登録された東北を代表する観光地の一つです。



中尊寺の本堂。金色堂が有名ですが、大きなお寺で本堂も多くの参拝者で賑わっています。



訪問時はちょうど桜の季節でした。東北の長い冬が終わり、毛越寺の境内にも春がやってきました。

東北新幹線を使うと東京駅から2時間余りで岩手県南部の一ノ関駅に到着します。ここで在来線に乗り換えて約10分で平泉駅です。平泉には平安時代に奥州藤原氏が拠点の置いたことから多くの寺院が建立され、中でも奥州藤原氏4代の遺体を安置している中尊寺金

色堂は特に有名です。金色堂については数々の観光ガイドブックに掲載されているので多くを語るまでもありませんが、実際にガラスケースに囲まれた金色堂の前に立つと、そのきらびやかな装飾は、900年近くも前に作られたものとは思えない



毛越寺の浄土式庭園。ゆったりとした風景に時間の流れを忘れそうです。

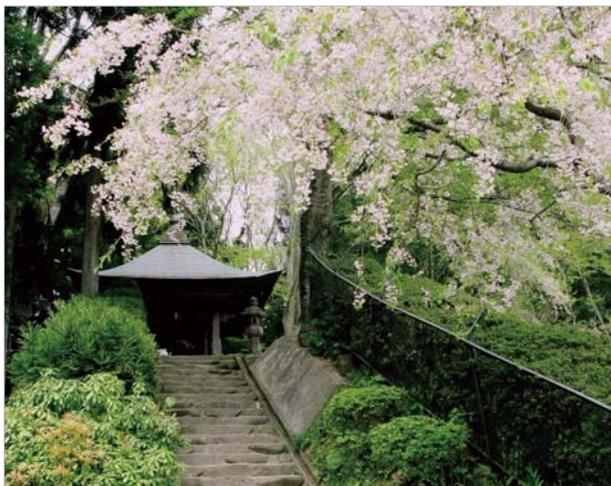
美しい姿を今に伝えています。また、平泉駅にほど近い毛越寺の境内に広がる浄土式庭園のゆったりとした眺めは、心が落ち着き、はるか昔の貴族の文化を今に感じることができます。



無量光院跡にある「中島の跡」。背景には東北本線の普通電車が何事もなかったかのように走り去ります。

だけの野原です。在来線がすぐ横を走っており、「中島の跡」と書かれた立札のある、こんもりとした小山の後ろを電車が何事もなかったかのように走る姿を見ていると、「諸行無常」とはこういうことなのかなと思います。

中尊寺、毛越寺の他にも歴史を感じることができる名所があります。一つは無量光院跡。宇治の平等院鳳凰堂をモデルとして建立された大規模な寺院があったとされていますが、奥州藤原氏の滅亡後に焼けてしまい、今は建物の基礎や池の跡が残り、松が生えているだけ



桜に囲まれた衣川館の義経堂。ここで最期を迎えた悲運の武将、源義経の木像が安置されています。

もう一つの名所は、衣川館（ころもがわのたち）。かの武将、源義経の最期の地とされ、1683年には義経堂が作られ、義経の木像が安置されています。義経堂は世界遺産には指定されておらず、国の名勝ですが、今も人気の義経だけあって、多くの観光客が訪れ

ていました。また当地は「夏草や兵共が夢の跡」という芭蕉の句が読まれた場所でもあり、衣川館の高台から雄大な北上川を眺めていると、ここでかつて奥州藤原氏や義経、弁慶が最期を迎えたことが夢のように感じられます。

平泉は、中尊寺がやや駅から離れており徒歩で25分程度を要するものの、歩いて一周できる比較的小さいコンパクトなエリア



衣川館から眺めた北上川。かつて激しい戦があったことなど想像もつきません。

に多くの史跡が詰まっている点が魅力です。駐車場や渋滞を気にする必要がない電車での訪問がお勧めで、4時間程度の滞在時間があれば存分に歴史を味わうことができます。

(岡山大学職員組合 組合だより 174号より加筆のうえ再掲)

2. 澄み切った地底湖 龍泉洞！

やはり暑くなると、涼しいところに出かけたくくなります。平泉の世界遺産を眺めた後は、一気に太平洋側の三陸へ移動し、岩手県岩泉町にある鍾乳洞、龍泉洞（りゅうせんどう）を訪れてみましょう。岩泉町は岩手県中部の太平洋岸から内陸にかけて広がる町です。この町にある龍泉洞は、澄み切った水をたたえた7つもの地底湖を持つことで有名で、涼しい洞内は夏に訪れるにはもってこいです。



龍泉洞の前を流れる澄み切った溪流。洞内から湧き出す名水百選に選ばれた水です。ぜひ現地で飲みましょう！

列車で龍泉洞へ行く場合は、まず盛岡駅から太平洋岸の宮古駅へJR山田線が急行バスで向います。ただし山田線の盛岡から宮古の間は土砂崩れのために現在、一部区間で運休しており、2017年秋の開通を目指して復旧工事が進められていま

す。宮古からは2015年10月の本誌39巻4号でご紹介した三陸鉄道北リアス線に乗り換え、岩泉小本（いわいずみおもと）駅で岩泉町民バスへ乗り換え、龍泉洞前のバス停で下車します。これだけでも岩泉からずいぶん遠くへ来た気分で、北海道に次いで全国第2位の面積を誇る岩手県の広さを実感します。



ひんやりとした洞内の様子。気温は年間を通して10℃前後に保たれています。

なお、かつては龍泉洞から約3.5km離れた位置にある岩泉駅まで、岩泉線というJR東日本のローカル線がありました。岩泉駅には列車が1日あたり3往復しか発着しないという全国でも屈指の閑散路線で、2010年7月の落石事故以降、復旧されることなく2014年4月に廃止されました。



エメラルドに光る地底湖の水面。息を飲む美しさです。

筆者は10年近く前に龍泉洞を訪れた帰りに岩泉線を利用しましたが、たしかに人煙まれな山中を細い鉄路が通っているという印象で、よく今まで運行

されてきたなあと却って感心したものです。

龍泉洞の前には、洞内から流れ出てくる水が流れています。この水は名水百選に選ばれており、付近の水飲み場で味わえます。緑に囲まれた溪流を見るだけでも暑さを忘れれます。

さあ、それでは洞内へ入っていきましょう。洞内は10度程度とひんやりとしており、上着を羽織っていくことをお勧めします。最初のうちは平らな細い通路が続きます。最初のうちは平らな細い通路が続きますが、ところどころで澄み切った水が流れる様子も見られます。奥へ進むと、第一地



洞内の見学コースの後半は階段が続きます。途中で絶景が待っています。

底湖へたどり着きます。この水は透明度が41.5mもあり、水深35mの水底が透き通って見えます。その後、第二、第三地底湖と進んで行きますが、ライトアップされてエメラルド色に光る湖面は息を飲む美しさです。さらに第三地底湖を過ぎてからひたすら階段を昇り、展望台から見下ろすと、洞内のはるか下で青く輝く第一地底湖が幻想的に見えます。全長数キロメートル以上あるとされている龍泉洞の中で、公開されている部分は往復で約700m程

度とわずかですが、鍾乳洞の不思議や地底湖の美しさを十分に満喫できます。

これで龍泉洞の見学は終わりですが、帰りも延々とバスと列車を乗り継ぐのは大変だという方には、龍泉洞の前から出ている盛岡行きのJRバスが便利です。このバスに乗車すれば、2



階段の上から見下ろした地底湖。はるか下に青々と光る湖面が見え、まさに絶景です。



かつての龍泉洞の最寄駅、岩泉駅。1日3回しか列車が姿を現さない全国屈指の過疎路線の終点でしたが、2014年に廃止されました。

時間余りで盛岡へ戻ることができます。往復ともこのバスを利用することも可能ですが、もし時間が許せば津波による被害から復旧した三陸鉄道を使って、復興しつつある岩手県沿岸部の町を片道だけでも訪れていただければと思います。

(岡山大学職員組合 組合だより176号より加筆のうえ掲載)

おわりに

今回は岩手県の名所を2か所ご紹介しました。東日本大震災から6年がたちましたが、東北地方の沿岸部では今でも復旧作業が続いています。そういったところを訪れて、現地の復興に一役買うことができればと思います。東北は他にも多くの名所がありますので、今後ご紹介していきたいと思